

ホームページ掲載用レジメン詳細(2021/10/31 改定)

【レジメン名】

SOX+HER 療法

【適応疾患】

胃癌 ☒ 進行・再発 ☐ 術前補助 ☐ 術後補助

【インターバル日数】

1 コース 21 日

【使用抗癌剤】

一般名/ 略号	投与法	投与時間	投与日
テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム/S-1 80mg/m ²	経口	2 回/日	day1～day14
オキサリプラチン/L-OHP 130mg/m ²	点滴静注	2 時間	day1
トラスツズマブ/HER 初回量:8mg/kg、2 回目以降:6mg/kg	点滴静注	90 分	day1

【注射スケジュール】

薬品名	投与量	目的	手技	点滴時間	d1	d2	...	d21	d1
生理食塩液	100mL	吐き気止め	点滴静注	30 分	↓				↓
プロイメンド	150mg								
生理食塩液	100mL	吐き気止め	点滴静注	30 分	↓				↓
デキサート	4.95mg								
生理食塩液	10mL	ルートフラッシュ	フラッシュ	フラッシュ	↓				↓
生理食塩液	250mL	抗癌剤	点滴静注	90 分	↓				↓
トラスツズマブ	初回 8mg/kg (6mg/kg)								
生理食塩液	10mL	ルートフラッシュ	フラッシュ	フラッシュ	↓				↓
5%ブドウ糖液	500mL	抗癌剤	点滴静注	2 時間	↓				↓
オキサリプラチン	130mg/m ²								
生理食塩液	50mL	ルートフラッシュ	点滴静注	20 分	↓				↓

【内服スケジュール】

薬品名	投与量	目的	d1	d2	d3	d4	...	d14	...	d21	d1
エスワン錠	80mg/m ²	抗癌剤	↓	↓	↓	↓	↓	↓			↓
1 日 2 回 朝夕食後											
グラニセロンゼリー	2mg/回	吐き気止め	↓								↓
1 日 1 回											
デカドロン錠	4mg/日	吐き気止め		↓	↓	↓					
1 日 1 回 朝食後											

【遺伝子検査】

検査項目	測定意義	陽性・陰性の定義
HER2 遺伝子検査	HER2(ヒト上皮細胞増殖因子受容体 2)は胃癌細胞に過剰に発現していることがあり、細胞の増殖に関与しています。HER2 が過剰に発現している(HER2 陽性)場合は抗 HER2 抗体薬(トラスツズマブ)の有効性が認められるため当レジメンでは HER2 陽性であることを確認する必要があります。	陽性:IHC 法にて 3+または IHC 法にて 2+かつ FISH 法にて陽性(HER2/CEP17 比 $\geq$ 2.0) 陰性:IHC 法にて 0, 1+または IHC 法にて 2+かつ FISH 法にて陰性

【副作用】

《主な副作用》 第Ⅱ相臨床試験

神経毒性(84.0%)、好中球/顆粒球減少症(78.7%)、食欲不振(77.3%)、悪心(65.3%)、下痢(52.0%)、嘔吐(20.0%)、LVEF 低下(10.7%)、浮腫(8.0%)

【薬学的ケア】

□ 投与量の確認

- ✓ 腎機能障害時には以下の目安を参考にティーエスワンの減量を確認してください。
(クレアチニン・クリアランスは血清クレアチニン値をもとに CG 式により算出)

投与開始前のクレアチニン・クリアランス		用量調節
重篤な腎障害のある患者	30mL/min 未満	投与不可
腎障害のある患者	30～40mL/min	2 段階減量
	40～60mL/min	原則として 1 段階以上の減量
	60～80mL/min	必要に応じて 1 段階減量

□ 末梢神経障害に対する対応

- ✓ 急性症状は、一過性の四肢末端、口およびその周囲のしびれ感や感覚異常であり、呼吸困難や嚥下障害を伴う咽頭喉頭感覚異常(絞扼感)などを伴うことがあります。ほぼ必発で起こります。
- ✓ 慢性症状は、知覚異常、感覚鈍磨などの手足の機能異常で、総投与量(≥オキサリプラチン累積投与量 850mg/m²)に依存して発症、増悪します。日常生活への支障が生じている場合(Grade3)には、オキサリプラチン休薬等の対応が必要になるため、以下の症状の確認をお願いします。

日常生活制限 Grade2～3 に該当する具体的な症状

服のボタンがとめにくい、ものをよく落とす、歩行や駆け足がうまくできない、つまづくことが多い、階段が上れない、文字がうまく書けない、水がとても冷たく感じる、飲み込みにくい、食べ物の味が変わった

- ✓ 手足、口腔内のしびれは寒冷刺激で誘発されるため、冷たいものにできるだけ触れない、冷たい飲食物をできるだけ摂取しない、洗面や手洗いは温水を使用する、炊事や洗濯時は厚めの手袋を着用する、エアコンなどの冷気には直接当たらない、寒い場所や部屋はさけるよう指導してください。

□ 血管痛に対する対応

- ✓ オキサリプラチンは末梢血管からの投与により血管痛・血管炎を起こしやすい薬剤です。点滴部位に腫脹や発赤がある場合は、刺入部位を保温することで、軽減されることがあります。

□ 過敏症の確認

- ✓ オキサリプラチン投与中や投与後に現れることがあります。プラチナ系の抗がん剤は、初回のみでなく 7～8 コース後に起こる場合が多いため、息苦しさ、かゆみ、皮疹、発赤などの症状を確認し、症状があれば病院に連絡してください。

□ 心不全徴候の確認

- ✓ トラスツズマブは重大な副作用として心障害が報告されており、主に左室駆出率(LVEF)の低下やうっ血性心不全が認められます。動悸、労作後の息切れ、頻脈、四肢の浮腫などの症状を確認し、症状があれば病院に連絡してください。

□ 眼障害に対する対応

- ✓ ティーエスワンにて涙道狭窄、角膜上皮障害(角膜びらん、角膜潰瘍、角膜炎)、結膜炎、眼痛などの副作用が報告されています。流涙(涙が止まらない)、光がまぶしく見える、目の痛み、充血などの症状を確認した場合は病院に連絡してください。

□ 併用薬の確認

- ✓ **併用禁忌: ティーエスワン+カペシタビン**
→カペシタビンが併用されていないこと、および投与中止後の適切な間隔(最低 7 日間)があいていることを確認してください。
- ✓ **併用注意: ティーエスワン+ワーファリン**

→血液凝固能検査値異常、出血の発現が報告されているため、ティーエスワン開始時には血液凝固能検査を確認してください。当院では、可能な限りワーファリン→DOAC へ変更で対応しています。